

2月5日（水） 本年度第30回（通算2716回）

「 地域発展について 」

担当/社会奉仕委員会

12時30分～釧路プリンスホテル

■メーキャップ

1月31日 北川 健二君 中嶋 嘉昭君（白糠RC）
2月3日 北川 健二君 中嶋 嘉昭君（釧路西RC）
2月4日 北川 健二君 中嶋 嘉昭君（釧路ベイRC）
2月4日 中嶋 嘉昭君（釧路東RC）
2月4日 足立 功一君 小山 義雄君 工藤 健司君 坂入 信行君 佐渡 正幸君 東海林 均君
大澤 恵介君 鈴木 圭介君 新免 豊司君 高橋 邦弘君 高橋 哲也君 丹葉 一恵君
富樫 孝之君 中嶋 嘉昭君 能登 信孝君 萩原 昭博君 日比 龍雄君 平澤 利秀君
本間 弘人君 福田 雅嘉君 松原 久幸君 村井 順一君 横田 國勝君 吉田 茂樹君
山本 大介君 千田 清 君 岡田 拓 君 中島谷友一朗君 小野寺英夫君 石井東洋彦君
菊池 美恵子君 田野 竜之介君（朝粥塾）

■出席報告【会員総数69名 免除7名 出席計算に用いた会員数69名】

出席者39名 本日の出席率 57%

■ニコニコ献金

- ・中島谷講師、本日はよろしくお願ひします ～小野寺 英夫君、小林 裕幸君、中村 祐昭君
- ・本日もよろしくお願ひします ～佐渡 正幸君
- ・朝粥塾ありがとうございました ～村井 順一君
- ・新年会以来です。すいません ～岡田 拓君
- ・連日ご苦労様です。友ちゃん頑張ってください ～坂入 信行君

■会長挨拶 《小野寺会長》



みなさんこんにちは。
昨日の朝粥塾には早朝にもかかわらずたくさんの会員皆様に出席頂き誠にありがとうございました。新しい会員、ベテランの会員それぞれに大変有意義な時間を過ごして戴けた事と思います。
今回参加できなかった方は次回ぜひとも参加して戴けるようお願い致します。今月は「世界理解月間」となっております。手続要覧によりますと「世界平和に不可欠な理解と親善を強調したクラブ・プログラムと活動を実施する」となっております。
世界は広く大きいですが、インターネットにより地域と世界が瞬時につながる現在においては、特に足が地についた事実を基にした情報によって、地域社会から世界まで理解することが大事ではないでしょうか。
そしてロータリーの神髄は親睦にあります。親睦、親善を通してロータリーの活動が世界の平和につながることを望みます。

■幹事報告 《佐渡幹事》



- ・2月4日の朝粥塾の講師を務めていただきました、松原パスト会長ありがとうございました。そして早朝よりご参加いただきました31名の会員の皆様ありがとうございました。
- ・1月の会報が弟子屈、厚岸RCより、2月例会プログラムが浜中、弟子屈RCより届いておりますので回覧いたします。
- ・ロータリーの友2月号をパーソナルボックスに入れておきます。
- ・本日より席順が変更になっておりますので、ご確認ください。



中島谷友一郎君

アイスホッケー界の現状

今週ソチオリンピックが開幕し、最近ではメディアに取り上げられることも多くなったアイスホッケーではありますが、国内スポーツ全体からみると、まだまだマイナースポーツの域を出していないのが現状であります。

しかし、ここ氷都くしろにおいてはアイスホッケーは多くの子供たち、市民が経験できるメジャースポーツであり、日本代表として世界に羽ばたける選手がいる、誇れるスポーツであります。

世界的に見ても世界ランキング男子21位・女子10位と、特に女子は世界に通じるところまで成長をし、これからもランキングを上げ、次の韓国五輪出場も手に出来るのでは、という現状です。

それでは、この氷都くしろでの現状はどうでしょう？

今シーズンの全道・全国クラスのメジャー大会で小学生は鳥取西小

全道優勝、中学生では釧路西部が全国制覇過去33回大会で釧路勢は23回優勝という輝かしい歴史があります。釧路（鳥取10回、北6回、青陵4回、景曇2回、合計23回優勝）日光3回、帯広1回、同じアイスホッケータウン、ライバルの苫小牧勢はというと6回しか優勝していない。

それでは高校生はどうなのでしょう？

全62回大会のうち、中学生と同じ年代での比較ということで過去33回でのデータになりますが、駒澤苫小牧23回、白樺学園3回、釧路工業4回、武修館2回、釧路江南1回（釧路勢7回）年代でみると1983年工業初優勝、85年・87年・89年優勝。短大附属時代1984年、1993年江南、緑ヶ岡高校2003年、ここ10年以上優勝がない。

なぜ、小中学生は氷都くしろの名に恥じない成績を収めているのに高校では勝てないのでしょうか。

ここからは、それらの課題に少しふれたいと思います。

なぜ高校は勝てないのか？

まずは、環境に恵まれすぎてハングリー精神に欠ける事と（リンク4つは未だ他地域からみれば好環境）他地域の指導者の情熱、それを当たり前のように支える父母（地域）の熱意の違いかと思えます。

次になぜ女子に勝てないのか？という事ですが、金銭的な面で有力な若い選手の引退、就職難で離釧というように、経済的な理由が主となります。

それを象徴するように時の六花亭が15年間支援し続けていたときは、全日本選手権を何度も制し、日本代表にも約半分の10人位が常時入っていました。

高校男子、女子とカテゴリーは違えどまだまだ多くの悩みや課題が山積みしています。

ここからは本例会のテーマでもあります「地域発展について」をアイスホッケーから考えてみます。

まずは地域の大人が子供（選手）を育てる意識を持つことが大切です。

進学・就職など環境を整備し、アイスホッケーのまちとして地域挙げての支援活動で盛り上げる。

盛り上げることにより釧路での合宿誘致・大会誘致・女子の大会・札幌五輪・世界大会のうちで経済効果を高めることによる地域発展、選手が釧路を離れる人口減少を防ぐために男子は地元高校進学、女子は他地域から進学、就職で釧路に来れるようなサポート体勢の構築による人口増加からの地域発展

日本製紙クレインズに頼るのではなく、地域がアイスホッケーでのスポーツ振興、地域発展を真剣に考え、アイスホッケーを釧路の市技にすることも考え、行政になげかけることも大切ではないかと考えます。